平成25年度　Ｄブロック勉強会　アクションプラン

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成26年2月6日（木）

◆個人で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

【疑義照会】患者に内容がみえない、処方医に気をつかっている、処方医や患者に遠慮して結果を患者に知らせない、患者を待たせる、患者の立場に立っていない　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ことが問題

◆班で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

疑義照会の起承転結が患者にみえていないこと

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　が問題

◆アクションプラン

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| |  |  | | --- | --- | | D2班 | 目標：【疑義照会】起承転結が患者にみえるようにする |   　　目標にいたる具体的な解決策   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | いつ  （実施時期） | 明日から | 誰が  （実施主体） | 薬剤師全員 | | 誰に  （働きかけ先） | 患者 | | | | どのように  （方法） | ・疑義照会を行いたい理由、疑義照会の結果などを患者に伝える。ただ、患者の目線に立って、伝える内容は臨機応変に対応する。  　（すべてを事細かに患者に伝える訳ではなく、伝えるべき内容を判断して行う）  ・患者に対しては、「疑義照会」という伝わりにくい言葉は使わない。  （処方箋の内容について問い合わせをする等、わかりやすい言葉を使って説明する）  ・敢えて意識して、「疑義照会している」というアピールは行っていく。  　（特に併用薬との重複や相互作用については、絶交の機会と思われる） | | | | 備考 |  | | | |

◆振り返り

　参加者が積極的に質問を行うという状態には出来なかったことが、コーチとしての反省点。ただ、「見える化の必要性」が話し合いの中心になった場面もあり、参加者の意識の向上には繋がったと捉えている。